

## ソラマメ（トンネル）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
トンネル	○ △ ~ ◎ — ※ —													
主な作業	被膜			摘収	種					播種	低温処理	本播準備	移植	主枝摘収

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

トンネル栽培は、ハウスと同様に種子の低温処理を行って開花期を早め、冬期はトンネル被覆を行って早春の生育を促し、4月上旬から収穫に入る作型である。

#### 2 適応地域

平坦地域

#### 3 栽培条件

##### (1) 温度

低温により花芽分化するので、種子の低温処理が必要である。

種子の発芽適温は 15 ~ 20 °C で、10 °C 以下または 30 °C 以上になると発芽率が悪くなる。

生育適温の幅は狭く 16 °C ~ 20 °C とされ耐暑性に劣る。また、花芽分化後は - 5 °C で茎葉が枯死することがあり、特に花や幼莢は低温に弱く 0 °C 以下になると落花、落莢や子実の生育不良をおこす。

そこで低温障害を回避し、早期出荷するためにトンネルを被覆する。

##### (2) 土壌条件

土壌の適応範囲は広いが、耐乾性に劣るため、保水性の良いやや粘質土壌が向いている。火山灰土はリン酸の肥効が悪いため事前に改良が必要である。

酸性土壌を嫌い、中性又は微アルカリ性土壌を好む。

#### 4 施設装備

(1) トンネル

(2) 冷蔵庫

#### 5 経営目標

(1) 収量 2t/10a

(2) 投下労働時間 640 時間/10a

(3) 所得率 50 %

(5) 経営規模 10a

(家族労働力 2 人の場合)

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

「陵西一寸」

「ハウス陵西」

ハウス栽培参照

#### 2 育苗

##### (1) 播種量

本圃 10a あたり 7 ~ 8 0

##### (2) 催芽と低温処理

10 月上旬頃おこなう。ソラマメは低温処理を行うことにより、開花節位を下げ、開花期を早める効果が高いので早だし栽培では必ず実行する。

欠株に対応するため 9cm ポリポット等に補植苗を準備する。

#### 3 本圃の準備

水田は水稻刈り取り後、弾丸暗きょ等を施工し排水対策に努める。植え付け 1 週間前にはマルチングを終了する。

## 5 収穫

ハウス栽培を参照して、適期収穫に努める。

### (1) 施肥量 (kg/10a)

	N	P <sub>2</sub> O <sub>4</sub>	K <sub>2</sub> O	備考
基肥	10	12	10	堆肥 2t
追肥	4	4	4	炭酸苦土
合計	14	16	14	120kg

### (2) 栽植様式

畦幅 120cm、株間 55cm(1,510 株/10a)を標準とする。

## 4 本圃の管理

### (1) 整枝と誘引

整枝は1月頃おこない、基本的には3本仕立て、L字誘引とする。厳寒期に寒害、主枝側枝の芯止まり症を受ける可能性があるため、最初は側枝を4本残し、2月下旬頃3本に整枝する。

### (2) トンネル被覆と温度管理

12月下旬～1月上旬までに準備し、裾を開けておく(天候に注意する)。保温のための開閉は1月中旬以降に開始し、温度が20℃以上にならないよう換気に十分注意する。

ビニル被覆は晩霜のおそれなくなった時期に除去する。

### (3) 摘花と摘莢

着莢は9節程度からとし8節までの花は早めに除く。

着莢は1節1莢を目標に行う。蕾の時に1節2花に摘花し、着莢確認後3粒莢以上を残し、奇形莢等は摘莢する。

### (4) 追肥と灌水

追肥は、開花・着莢確認後施用する。1回あたりの追肥量は10a当たり窒素成分2kgとする。灌水は定植直後及びビニル被覆直後は十分灌水する。その後も適宜に灌水する(目安: pF1.8～2.0)。

### (5) 寒害・草勢維持対策

低温(-3℃以下)・乾燥に遭遇すると寒害・芯止まり症が多発する。ハウス・トンネル栽培は寒害対策としてハードニングのため被覆は早くから行わない。また、圃場の周囲に防風ネットを設置する。